埴生中学校　学習の手引き

年　　組 氏名

家庭学習のすすめ

～学校と家庭の連携で子どもたちに確かな学力を！～

埴生中 学びの習慣『5箇条』

1　毎日「早寝・早起き・朝ごはん！」

2　笑顔で挨拶・声がけ

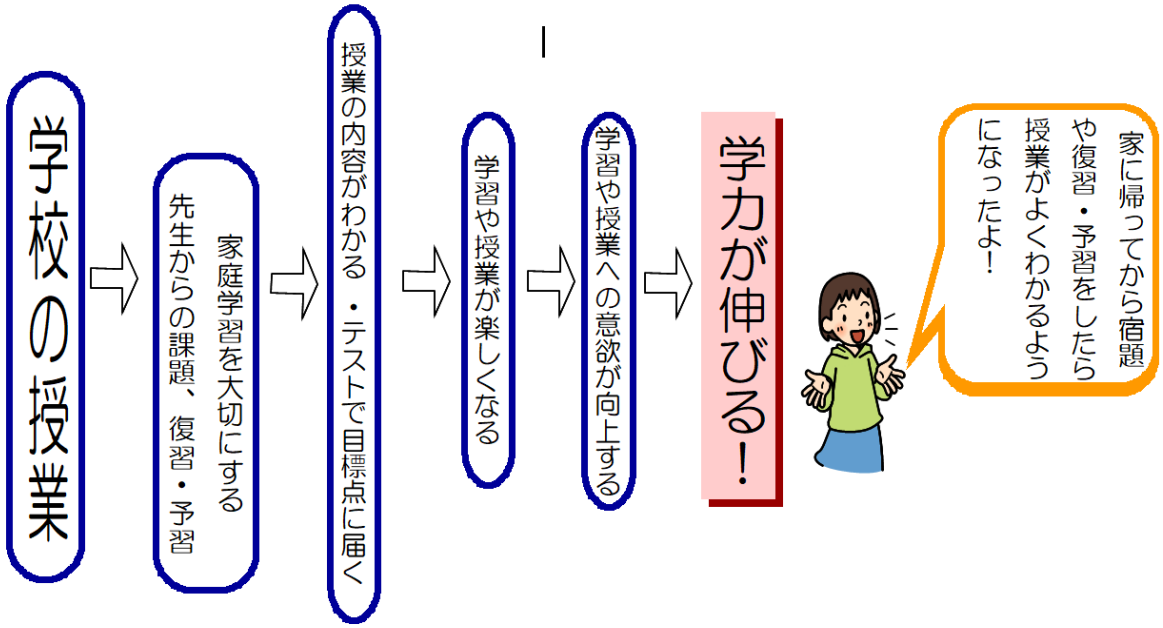
「おはよう」「ただいま」「おやすみなさい」

3　毎日の家庭学習、「学年＋１時間」を目標に！

4　スマホやタブレットは家庭でルールを！

5　月に一度のノーメディアデー、親子で読書や団らんを!

学　力　向　上　の　サ　イ　ク　ル



家庭学習の意義

（１）学習習慣作り

学校で学習したことを確実に身につけて行くには、繰り返し取り組むことが必要です。また、毎日机に向かうことは、徐々に高度になる学習内容を確実に習得するために大切です。そのため、学校での学習以外に家庭学習の習慣形成をすることが、学力向上につながります。

（２）学習内容の定着

漢字の読み書きや計算、音読などを確実に身につけるには、何度も繰り返し練習することが大切です。基礎学力の定着が、次への学習の意欲、発展学習の意欲につながります。

（３）学習内容の発展

授業で経験した「自分にもできそうだ」という成功体験や「どうしてだろう」「調べてみたいな」「なるほど」「わかったぞ」などという一連の追究経験をもとに、日常生活の中で生まれた疑問や授業で学んだ学習内容の発展などを自分で計画を立てて追究すると、知識が広がります。

家庭学習において保護者の皆様にお願いしたいこと

（１）「家庭」で学習する習慣をつけましょう。

〇決まった時間に学習する習慣をつける。

（２）学ぶための環境作りをしましょう。

〇学習をしている時にはテレビを消す。「〇〇ながら」勉強はさせない。

〇整頓された場所で、よい姿勢で学習させる。

（３）見届け・励まし、関心を持ちましょう

〇頑張りを認め、誉め、励ます。

〇勉強している姿を見守る。

〇分からないことは、教えたり、先生に聞いたりするように声をかける

家庭学習の内容、取り組み方

各教科の学習で、よく分からなかったことを自主的に復習すると効果的です。また、教科によっては宿題が出る場合があります。各教科で確認してください。

（自主学習の例）

〇各授業で授業中に記入したノートを見返したり、まとめ直したりする。

〇学校で配られた問題集やプリントの問題を解く。

〇市販の教材の問題を解く。

〇教科書や参考書を使って、よく分からなかったことを確認する。

※詳しくは、各教科の手引きをご覧ください。　自主学習は、誰にも強制されない学習ですので、計画的に行うことが大切です。テスト前に慌てることがないよう、日々、学習を積み重ねていくことが大切です。自分の目標に向かって、計画的に学習を進めていきましょう。

国語科家庭学習の手引き

1　家庭学習の仕方

(1)ねらい

自分で計画し、漢字練習やワークブックの問題を解くことで、基礎的・基本的な力をつける

漢字が自由自在に読み書きできると、人生が充実したものになります。コツコツがんばり、漢字力を養っていきましょう。授業の復習をして、内容の理解を深め、表現技法など使えるようにしよう。

(2)ノートについて

①1ページ200字以上の漢字練習帳【または「白文帳」】 ②ワークブック【または専用のノート】

(3)内容

①漢字練習は、自分の必要に応じて取り組む。

・「漢字練習字典」を使用する。(テスト範囲としても指定される)
・教科書を使用する。(新出、既出漢字を書く)
・テストに出た漢字、その他の問題集を使用する。

②授業用のワークブックや文法の問題集なども、自分で計画して提出しましょう、

(4)評価の仕方

・教科担任がチェックをします。丸を付けたり、誤字を直したりしてお返しします。
・提出率ではなく、内容が大切です。自分で必要な課題に取り組もう。

(5)やり方

①漢字練習

手本をよく見て「とめ・はね・はらい」を意識し正しい書き順で練習します。やり方をいくつか紹介します。

書けない漢字を繰り返し練習する方法

教科書に出てきた新出漢字などを繰り返し練習するやり方です。ポイントは、練習する漢字をあらかじめ書き出しておき、縦に繰り返し練習するのではなく、横へ横へと毎回違う漢字を練習することです。また、読み方も必ず書くようにしましょう。

問題形式にして取り組む方法

覚えたい漢字だけでなく、その漢字の使われている用例を写します。覚えたい漢字は書かず、読み仮名と送り仮名だけを書き、次に見ないでその漢字を書きます。再度、手本を見て、赤丸で○×をつけ、×の字を何回か練習します。時間はかかりますが、同訓異字や同音異義語も書き分けられるようになります。

②ワークブックや文法の問題集は、自分の力で解くことで内容の理解が確認できます。場合によっては、漢字練習より時間がかかります。時間がないからと言って、最初から答えを書き写して、○をつけて出すことは厳禁です。全く力がつきませんし、学ぶ力には大きなマイナスとなります。

2　自主学習の例

○国語科で配付した参考書を繰り返し行う。[1回目は復習ノートにやる、2回目は直接参考書に書き込む　等]
○自分に合った問題集を購入し、繰り返し行う。[古文が苦手な人は古文の問題だけの参考書を買う　等]
○漢字検定の参考書を買い、そこに載っている漢字問題を行う。[定期的に漢字検定を受ける]
○3年生は過去問に取り組み、高いレベルの文章を読み慣れる。[総合テストの文章のレベルは高いです！]

3　テスト前の学習例

○漢字は、前記のように工夫しながら繰り返し書くことで覚えられるようになります。
○現代文は、まずは教科書を読み、漢字の読みや分からない語句を辞書やchromebookで調べて確認をする。次にノートの見直しをし、大事な部分＝要点を確認する。
○古典も、まずは教科書を読み、現代仮名遣いで読めるようにする。次に古文を読んで、現代語訳を書く。最後に、参考書を行ったり、単元テストの見直しをしたりする。
○国語科で配布した参考書（ワークブック）で内容の理解の確認をする。○×をつけて、×のついた問題は再度解いて理解を深めておく。

社会科家庭学習の手引き

家庭学習を通して

学習した内容を身につけ、社会に興味を持つことができるための家庭学習にするには

まず、社会科は三つの分野があります。三分野それぞれに学びの本質が違うので、紹介します。それぞれの分野の性質に合わせて学び方も変わります。

地理分野は、 空間的なつながり学習です。	**歴史分野は、 時間的なつながりの学習です。**	**公民分野は 関係のつながりを学ぶ学習です。**
現在、生活している世界や日本のどの地域が、どんなところなのかを観ていきます。実際にそこに行ければ良いですが、それができないので、**地図などを使ってその地域や国がどんなところで、どのような特色があるのかを観ていきます。** **そこで、使うのは地図などの空間的な広がりや関係をつかむ学びです。**	世界や日本の人々の生活が昔からどのように発展してきたのか。それは、どのような出来事からなのか。それによって人々の生活や社会がどう変わってきたのか。 そこで、使うのは、**年表**です。出来事の時間的なつながりを学ぶために年表を使います。	政治や経済では、政治はどういう関係で進められるのか。経済はどういう関係で進んで成長していくのかを学んでいきます。 この関係を図に表わすことで、関係をつかむことができます。 そこで、政治や経済を学ぶ公民では**関係図**を使います。

（1）**社会は、授業の課題を解決して学ぶ授業です。**

① **１時間ごとの課題解決**を、地理分野は、地図を使ってまとめます。　歴史分野は、時代の変化を意識してまとめます。公民分野は、関係を図にしながらまとめます。

② **単元ごとの課題を解決する**のに、地図や年表・関係図を使って、まとめて、全体を観る力を着けていきます。

③ 上級生になると、地理と歴史は互いに関係していきます。そして、その地理歴史の上に公民が重なってきます。**公民では、地理や歴史の学びを使って社会生活上の課題を一時間や単元を通して解決していきます。**

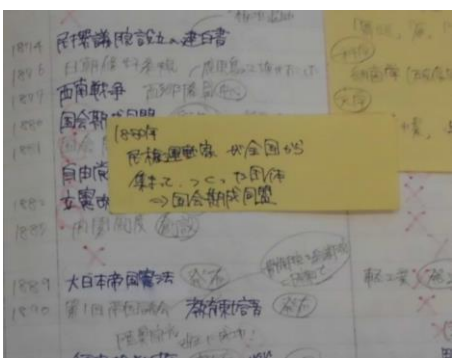
（2）**課題解決に取り組んだ今日の学習を振り返る家庭学習のやり方の例**

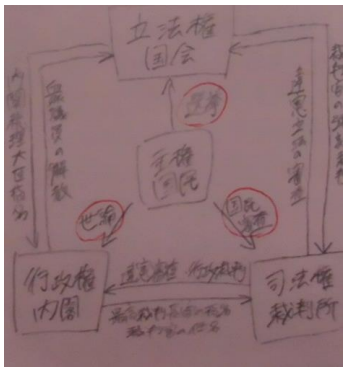
① １時間ごとの課題解決や単元のふりかえりについて、教科書や自分のノートのまとめを観て、地図・年表・関係図でまとめてみることが考えられます。また、それが宿題として家庭学習になります。

② 今日の授業で学んだことを、ワークブック・単元プリントを使って、問題を解きながら、地図・年表・関係図をイメージしながら答えていくことが考えられます。

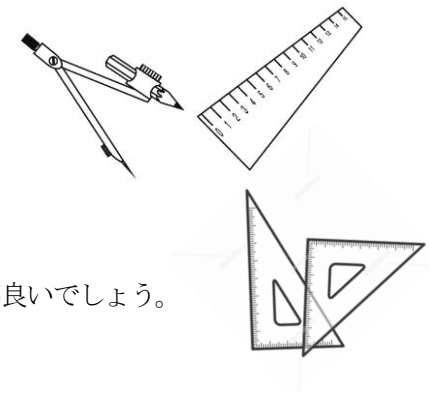
③ 今日または単元に出てきた言葉を説明できるか。できなければ見返し文や地図・年表・関係図にしていきます。

④ 教科書の右下にチェックとトライに答えられるかをやってみて、先生に見てもらうことも考えられます。





数学科家庭学習の手引き



1　家庭学習の仕方

（1）ねらい

授業で学習した内容をその日のうちに確実に身につける。

（2）ノートについて

ノートについては特に指定はありませんが、横罫線の大学ノートが良いでしょう。

（3）内容

◇**毎日、１ページ以上**

①「**日付と時間（月、日、曜日、開始時刻）**」を書きます。

②**学習のめあて**を書きます。（例：「解の公式を正確に使えるようにする！」など）

③問題に取り組み、**答え合わせ**をします。

④答え合わせをして、**わからなかったりまちがえたりした問題を直したり赤ペンで書き加えたり**します。

⑤**学習のふりかえり**を書きます。（例：「符号のミスが多かったから、代入するときに気を付ける。」など）

（4）評価について

・教科担任が毎日確認し、サインをしたりコメントを記入したりしてお返しします。

・提出されたノートの内容を評価の参考にする予定。

（5）やり方

◇その日の授業の学習内容や関連する問題、以前間違えてしまった問題に繰り返し取り組もう。

・授業があった日は、もう一度同じ問題をひとりで解いてみる。

・授業で学習した内容を問題集で取り組んでみる。

・前にまちがえたりわからなかったりした問題にもう一度取り組んでみる。

※必ず答え合わせをして、見直し・解き直しを行いましょう。

【確認事項】

・提出ノートとは別の課題が出ることもあります。教科担任の先生の指示に従って提出してください。

例）Chromebookを活用して家庭学習に取り組むことがあります。

2　自主学習の例

○毎日の家庭学習において、時間に余裕がある場合は自主学習にも取り組みましょう。
○内容は提出ノートのように復習でもよいですが、可能な人は予習をおこなってもよいと思います。
○予習の具体的な内容としては、公式を確認したり、解答がある例題を解いたりすることがあげられます。このことは次の授業にいかされます。

3　テスト前の学習例

○授業中におこなった教科書の基本事項や問題および単元プリントを復習し、理解しておきましょう。
○学校から配布されている問題集で、テスト範囲の該当するページを提出ノート等で取り組み、必ず答え合わせをしましょう。わからなかった問題やまちがえた問題はチェックし、解説や質問等を通して理解しておきましょう。
○チェックがついている問題は、テスト範囲の学習が一通り終了したら、もう一回取り組みましょう。
※３年生の総合テストではテスト範囲が広いので、まずそれぞれの単元の基本問題から取り組むようにしていきましょう。基本問題がほぼ確実になったら、発展問題や応用問題に取り組んでください。

理科家庭学習の手引き

1　家庭学習の仕方

（1）ねらい

授業で学習した内容(観察・実験したことなど)を　まとめることを通して、学習内容の定着をはかる。

（2）ノートについて

学習ノートを用意しましょう。ノートの形式は問いません。

（3）内容

理科は、毎日の家庭学習はありません。授業があった日でよいので、(5)の内容で復習してみよう。

（4）評価について

学習ノートは、週の初めに理科担当の先生に提出すると、がんばりを評価 して返してくれます。学習の仕方をアドバイスしてもらいましょう。

（5）やり方

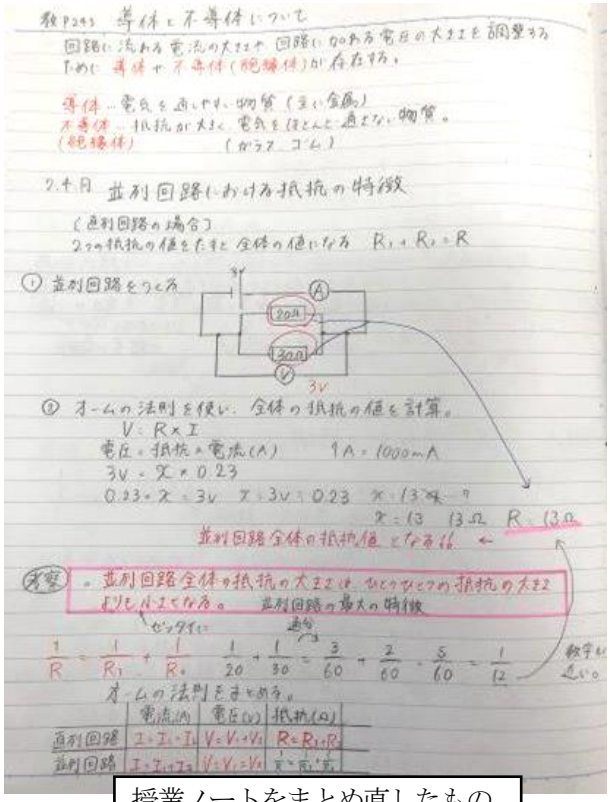
①授業で書いたノートを再度別のノートにまとめましょう（そのまま書き写すことはやめましょう）。その時に、授業で観察・実験があった場合は、どんな内容の観察・実験であったかを教科書やワークシートを見ながらまとめていきましょう。観察・実験の注意事項は大切な点ですので、必ずチェックしておきましょう。

②教科書の太字の文字については書き出し、意味や漢字を正確に書いて覚えましょう。(漢字練習)

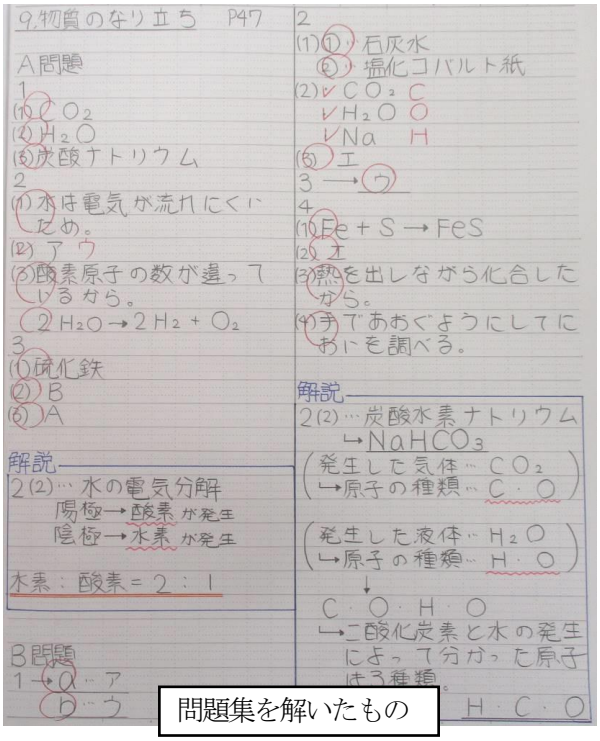
③問題集の問題を解き、理解しているか確認しましょう。必ず答え合わせをしましょう。答え合わせ後、間違えてしまった問題について、答えの解説を読み、同じ間違いをしないようにポイントを記入する習慣を身につけると良いでしょう。

④実験結果から導かれた公式や法則を利用した計算問題をやった場合は、似たような問題をワークブックから探し、再度やってみましょう。

★以上の内容でやると学習ノートに１時間近くはかかるはずです。



授業ノートをまとめ直したもの



問題集を解いたもの

2　自主学習の例

学習ノートが自主学習そのものです。上のやり方を参考に、充実したノートを作っていこう。

3　テスト前の学習例

○学校で配布の補助教材「理科の学習」をテストまでに最低２回は行いましょう。答えを写して、先生に提出するような学習では何にもならないのでその点は注意しましょう。

○単元プリントを使って必ず復習しましょう。答えの部分を折ったり、コピーしたり、自分なりに工夫して復習しましょう。

○理科の授業があった日は、授業内容を復習し、次回の授業の予習をすると効率よく学習が進みます。

※以上は１、２年生の定期テスト用の学習です。３年生はこのほかに以下の学習も必要です。

○2 年生の 2 学期に購入した 1～3 年のまとめの問題集を夏休みまでに最低 2 回はやりましょう。2 年 3 学期期末テストから 3 年 1 学期の期末テストまでのテスト範囲とする予定です。

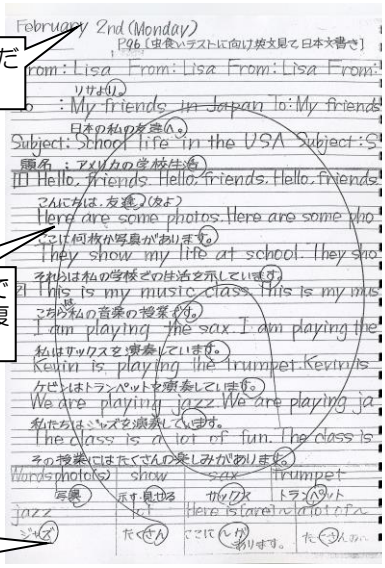
英語科　　1 家庭学習・自主学習のしかた

(1)ねらい　繰り返し英語を書いたり、読んだりして、基本的な英語表現を身につけながら、自分の言いたいことを英語で表現することができるようになろう。

(2)内容とやり方　(A・B・C のいずれかをやりましょう)

A:ノート(4線ノート・大学ノート)　**・・・1年生は10段～、2・3年生は13段～または大学ノートを各自準備してください**

↓　おすすめのノートの例



○単語練習・教科書の本文や基本文の書き取り

①日付(月・日)を英語で書く

②その日学習した単語や英文の中から、これは覚えておきたい、大事だというものから書く

→日本語を先に書いて英語にしてみる

→教科書やプリントを見て、間違えたところは直す

③間違えた単語を練習する。繰り返し書いたり、自分でテストをしたりして答え合わせをする

B:新英語のワーク　**・・・4月中に配布します**

(3年生は英語の新研究(専用ノート・大学ノート)も)

○自分の力で問題を解き、必ず答え合わせをして提出する

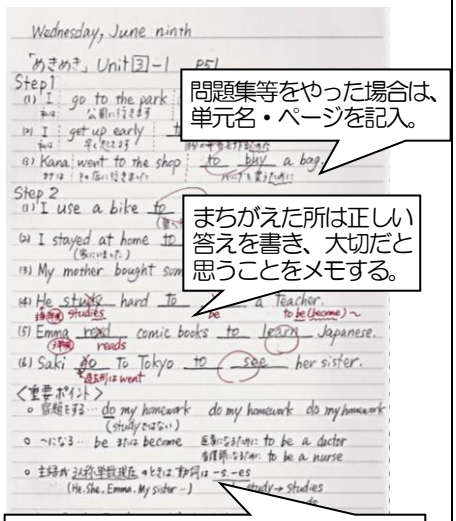
①本誌に直接書く前に、ノートに2回くらいやるのがベスト

②必ず答え合わせをして、提出をする

C:教科書の音読・暗誦

○教科書に出てくる語句（単語・連語）や本文は、発音・アクセントが‘口ぐせ’として身体にしみつくまで、まねて読む特に本文は、区切りやリズムに気をつけて覚えてしまうくらい何度も読む

※教科書にある QR コードを読み取り音声で聞いて練習するのもおすすめです！



<実りある学習チェックリスト　・・自分の学習に✓を入れてみよう！>

△もったいない学習	◎『実りある学習』
□1ページをただ何となくうめて（書いて）おしまい	□授業で使った英語を繰り返したり応用したりして書く
□どの単語や文も同じ回数書いている	□これは書けたら使えるという英語は何度も書く
□ワークの答えを最初から見て写しておしまい	□力試しで解き、間違ったら☑してやり直す
□穴埋めや 1 問1答式の問題だけで、作文をしない	□作文や自己表現で、分からないことが出てきたら教科書や辞書を調べて書いてみる

2　テスト前の学習例

○教科書の内容を復習するために、日本語を見ながら英語を書き、自分で答え合わせをしてみよう。
○教科書の本文（または基本文）を繰り返し、読んで暗誦し、それを書いて答え合わせしてみよう。
○授業でやった学習プリントや、1度解いたワークの問題をもう一度やってみよう。
○英作文については、自分の書きたいことが正しく表現できるように、何度も繰り返し書いて先生に添削してもらおう。

中学生の勉強時間は、成績上位層は１日平均１時間１０分、成績下位層は１日平均４８分だったそうです。机に向かう時間の２０分の差で結果が違ってきます。ある調査から、家で2時間以上勉強しても、スマホを 2～3 時間使用すると勉強した成果は帳消しになってしまうことも分かってきています。

音楽科　家庭学習の手引き

○　『題名のない音楽会』（テレビ朝日系）や、日曜日の夜にEテレで放映されている『クラシック音楽館』、『関ジャム 完全燃 SHOW』（テレビ朝日系）、他にもジャンルを問わず、テレビやラジオで音楽番組が多数放映されています。視聴することで意識を高めることができます。また、ＣＤ等で音楽を聴くこともお勧めです。いい音を聞くことで、耳が鍛えられます。

○　ホール等で行われる公演に出かけ、生の音楽に触れるのもいいでしょう。

美術科　家庭学習の手引き

○　『日曜美術館』（放送　NHK　Eテレ日曜９：００～９：４５、〈再〉２０：００～２０：４５）の視聴がお勧めです。番組では、毎回ゲストを迎えて国内外の様々な美術を紹介します。ゲスト個人の観点から、芸術家や作品を紹介するなど、独特な切り口が番組の魅力かと思います。また、番組最後の１５分間では、「アートシーン」と題し、美術界の動向や全国各地の展覧会の情報などを紹介しています。この番組をきっかけに、展覧会に出掛けたり情報端末で美術について検索したりして、好きな作家や作品を見つけてみると、「鑑賞力」や「表現力」の高まりにつながると思います。興味があったら是非視聴してみてください。

家庭でも体力を高めよう！（保健体育科）

◆埴生中学校の体力の弱点

・柔軟性が足りない　・瞬発力が足りない　・スピードが足りない

◇家庭で取り組めること

〇柔軟性を高めるためにお風呂上がりにストレッチをしてみよう！

・下肢の裏の部分（アキレス腱、腓腹筋、ハムストリング）のストレッチ

・下肢の表の部分（特に太もも）のストレッチ

・股関節（足のつけ根）のストレッチ

※ストレッチは、呼吸を止めずに４０秒程度ゆっくりと筋肉や腱を伸ばすと効果的です。

〇瞬発力、スピードを高めるために体幹トレーニングをしよう！

・バランスボールに座る　・ジャンプトレーニングする　などが効果的です。

※股関節、腰回りに柔らかい筋肉をつけることがポイントです。

技術・家庭科　家庭学習の手引き

「学習したことを活用し、実生活での課題を解決できることが、技術・家庭科の１番の目標です」

①　家庭学習について

＜技術分野＞・基本的に宿題はありませんが、家庭生活で課題を探したり、製作したものを家庭でどのように利用したりしているかを、クロムブックで写真撮影してレポートを作成することがあります。

＜家庭分野＞・基本的に宿題はありません。しかし、家族に聞いてくること・家庭での生活の様子（日常の食事、伝統の食事、家の間取り、幼い頃の様子など）を調べ学習の課題として出すことがあるので、しっかり取り組みましょう。

②　テスト前の学習の仕方

・テストは、授業で扱ったことから出題します。教科書、学習ノート、学習カード、板書などの内容をよく復習し、理解しておきましょう。

・製作手順、使用した用具・工具について、名称や使い方をよく理解しておきましょう。